●本号の内容 花田達朗さんの連載始まる

•n1

『世界』で花田達朗さんの連載スタート

『関西生コン弾圧と産業労働組合、そしてジャーナリスト・ユニオン』

花田達朗さん(早稲田大学名 誉教授)の連載が、8 日発売の月 刊誌『世界』10 月号でスタート した。

題して、「関西生コン弾圧と産業労働組合、そしてジャーナリスト・ユニオン」。(注)

連載は次のような書き出しではじまる。

「なぜ「関西生コン事件」で 産業労働組合が官憲に弾圧され るのか、なぜ労働界は正面から 支援に乗り出さないのか、なぜ 有力な労働法学者たちが「戦後 最大規模」と言っているほどの 労働事件が世の中には知られず、 日本「マスコミ」は沈黙してい るのか・・・」

連載は3回予定で、第1回の今月号では、花田さんがミュンヘン・コミュニケーション共同研究所の研究員として1975年~1986年にかけてドイツで暮らした体験をもとに、ドイツの産業別労働組合がどのようなものかが紹介されている。

花田さんは、「探査報道に特化 したジャーナリズム組織」=

連 載 ぜ有力な労働法学者たちが「戦後最大規模」と言っているほ そしてドイツ語圏の四大学が共同で設立した「ミュンヘン 黙しているのか、 どの労働事件が世の中には知られず、日本「マスコミ」は沈 れらの問いを考えるために、まずドイツの産業労働組合が スト・ユニオンが存在しないのか、その結成は可能なのか 関西生コン弾圧と産業労働 ドイツの産業労働組合の原理 なぜ労働界は正面から支援に乗り出さないのか、 関西生コン事件」で産業労働組合が官憲に弾圧され なぜ日本に産業労働組合としてのジャーナ をカバーする労働組合がまずまとまることが重要なスタート オン(RFFU)と印刷・用紙加工産業労働組合(IG印刷) 密交渉の場に同席した。メディアで比重が大きい放送と新聞 吊任中央執行委員会は組織統一に向けた協力協定に調印し、 ラインだった。 帰国したのは一九八六年だった。 コミュニケーション共同研究所」の研究員として暮らした。 してメディア産業労働組合を結成しようという過程で、 その間に筆者は、メディア分野の既存の労働組合組織を統 一九八〇年一〇月、放送・テレビ・映画ユニ 田 世界 SEKAI 2021.10

Tansa の創設者のおひとり。Tansa は 2018 年、82 カ国 211 の独立・非営利ニュース組織が加盟する「世界探査報道ジャーナリズムネットワーク (GIJN)」の公式メンバーに、日本で初めて加盟。報道機関としては国内で唯一だとのこと。詳しくはホームページ https://tansajp.org/を参照ください。

注・花田さんによれば産業労働組合としたものが、産業労働「運動」となっているとのことです。

発行:全日建(全日本建設運輸連帯労働組合) お問い合わせ03-5830-6418